

# むつ市の地理学巡検報告

## 序

むつ市は、下北半島の頸部に位置している。

昭和34年に大湊町と田名部町が合併して市制を施行した。昭和57年6月1日現在、人口は50,710人、面積は246.94km<sup>2</sup>(手続中を含む)である。

むつ市は、下北地方の中心地であり、諸方面において重要な役割を担っている。今後、ますますその役割は増大するであろう。しかし、必ずしも問題点や課題がないわけではない。

以下では、自然環境・人口・農牧業・水産業・工業・交通・商業について、現状を報告し、将来の展望にも多少、考察を試みることにする。

## 1 自然環境

### (1) 地形

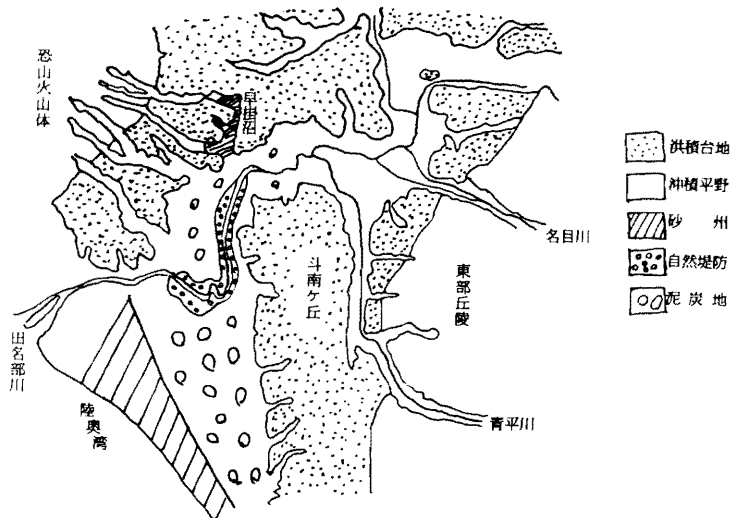


図1 田名部低地帯の地形区分(資源科学研究所彙報No.40より)

下北半島は、地質的・地形的にみると半島頭部の西部地区と、半島頸部である東部地区に分けられる。むつ市は、そうした東部と西部をつなぐ南地に伸びた田名部低地帯に位置している。この田名部低地帯は、第4紀に形成され、地形的にみると沖積平野と洪積台地の2つに区分される。

洪積台地は、田名部川が蛇行する沖積平野によって北西部と南東部の2つに分けられる。北西部の台地は、西方で海拔40～50m線付近を境として、恐山火山の斜面に接している。南東部の台地は、田名部川の支流である青平川および目名川によって開析され、3つの台地

に分けられる。この台地の高さは海拔20～25mであり、東部の丘陵地帯に30～40m線を境に接している。台地は、おもに火山灰からなり、畑・採草地・牧野等に利用されている。

沖積平野は、自然堤防、低温地帯である泥炭地、および砂州地帯からなる。泥炭地は、田名部川下流のすぐ南に位置しており、斗南ヶ丘台地の崖線と南東から北西に広がる砂州によって囲まれている。砂州の海拔5～6mに比べ、この泥炭地はやや低くなっている。大部分は古くから開田されているが、かなりの未耕地が存在している。この地域の発達は、北西から南東にのびる砂州の生長に伴い、潟が形成され、その潟湖の堆積による陸化に伴い泥炭層が堆積されたと考えられる。また、田名部川中流・上流にかけても泥炭地が発達している。この地域もかつては溺れ谷伏に海が入りこみ、その後の陸化に伴い泥炭層が堆積されたと考えられる。

砂州は海拔5～6mで、斗南ヶ丘の崖線と45度に近い角度で南東から北西に向かっている。現地観察では、ほとんど平坦な地域だが、地形図からは浜堤列が認められる。浜堤間にある浅く狭長な凹地には、ヨシ、ススキ等の遺体を含む小湿地が分布するが、この湿地にも泥炭が発達している。

自然堤防は、田名部川中流および上流に分布しているが、範囲はきわめて狭い。

## (2) 気 候

### a 気 温

むつ市における年平均気温は、10℃以下であり、最暖月の7、8月で20℃を超え、最寒月の1、2月では氷点下3～5℃となっている。ここで特徴的なのは、夏期にヤマセと呼ばれる北ないし北東の寒風が、田名部低地帯を通して、むつ市へ直接吹きつけることで、これによってしばしば冷害に襲われる。

図2、表1はそれぞれ、各月の平均気温、年間の真冬日、真夏日等の日数を示している。冬期は11月中旬から3月中旬にわたり最低気温が氷点下となる月が続き、真冬日となる日も20～40日ある。夏期は真夏日が現われる日が4～12日と少ない。

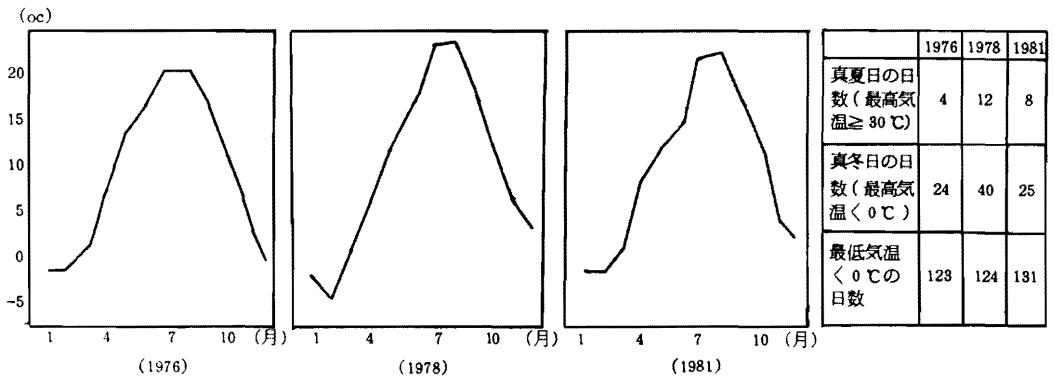


図2 各月の平均気温

表1

## b 降水量

12月から2月にかけては季節風による降水が非常に多い。3月になると北西の季節風が衰えるため、5月まで降水量は少なくなる。6月から8月にかけては梅雨の影響で月降水量は100mmを超すが、7月が最少降水月となった年も見られる(1976、1978年)。また、8月には300mmを超える年もあった(1981年)。9月から11月にかけては、台風や秋霖の影響で全般に降水量は多い。(図3)

降水日数については表2のように、日降水量が1mm以下の年間総日数は140～160日前後であり、無降水日数は100日前後である。

降雪期間は11月上旬から4月上旬までの約5ヶ月間である。積雪は50cm以下で、下北半島の中では最も少ない。

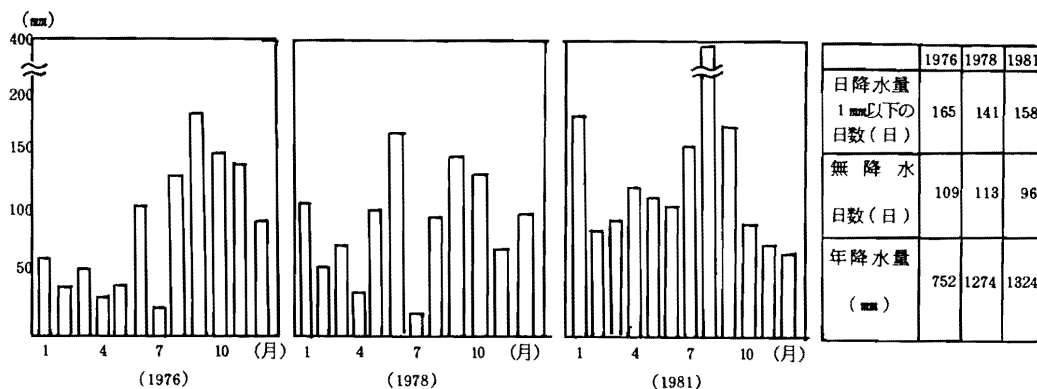


図3 各月の降水量

表2

## c 風

むつ市に吹く風は、冬期の北西季節風、夏期の南東季節風および梅雨期の北東風である。春、秋には特に卓越する風はない。

(本間茂樹・水木 覚)

## II 人口

### (1) 人口の推移

#### a 総人口と人口増減率の推移

図4、図5は、むつ市の総人口、人口増減率、自然増加率、社会増加率を示したものである。

図4の総人口を見る限りでは、人口は年ごとに徐々に増加しているが、人口増減率で表すとその値は年度によって大きく変動する。そこで増減率を自然増加率と社会増加率に分けグラフ化した。

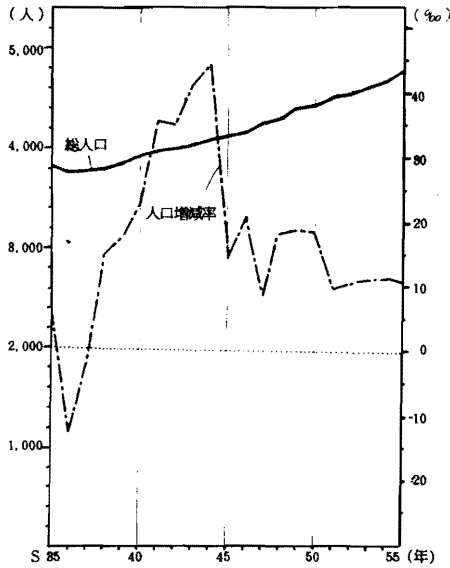


図4 総人口と人口増減率の推移

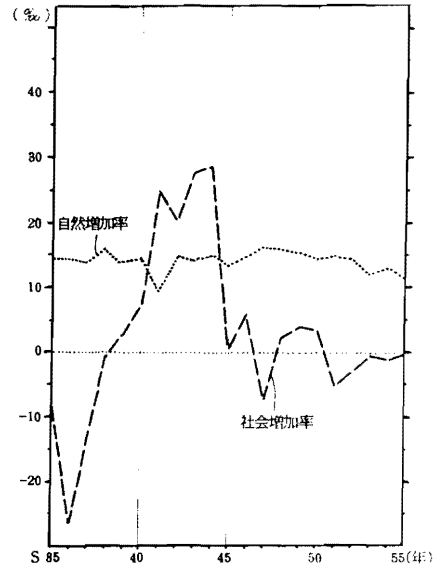


図5 自然増加率と社会増加率

図5によると、自然増加率は大きな変化はないが、社会増加率は大きく変動している。つまり、むつ市の人口増減率の変動は社会増加によるものであることがわかる。

昭和35年ごろには、地域住民の他地域への流出がみられたが、その後回復し、昭和37年からは転入数の増加が顕著になってきた。この原因として、昭和40年から45年にかけて原子力船「むつ」の関係者が転入し、「むつ」の関連業がむつ市の経済に活気を与えたための結果として急激な社会増加がおこったのではないかと考える。この社会増加は昭和44年に頂点に達し、それ以降は沈静化にむかい、「むつ」が佐世保に移転した後は減少の傾向を示している。現在の人口増加は主として、自然増加によるものである。しかし、今秋(昭和57年)「むつ」が大湊に帰港したことにより再び社会増加がおこる可能性もある。

#### b 年齢別および性別の人口構成とその推移

図6に昭和35年から10年ごとの年齢別、性別の人口構成の推移を表した。

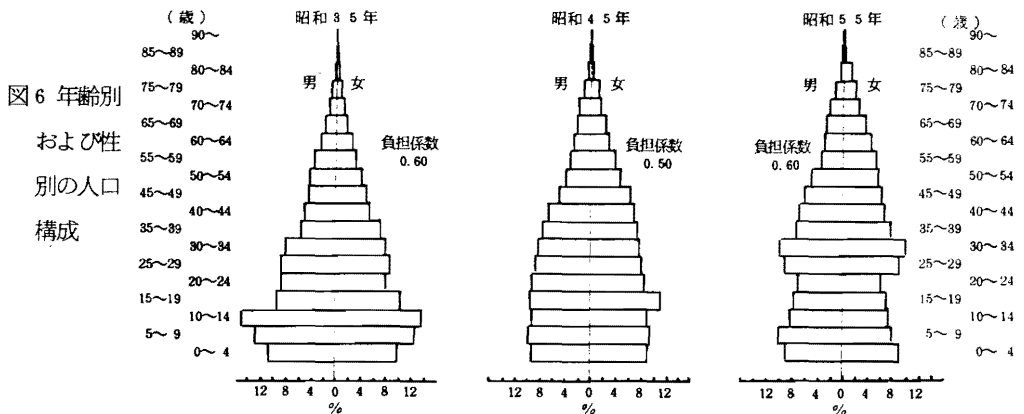


図6 年齢別  
および性別の人口  
構成

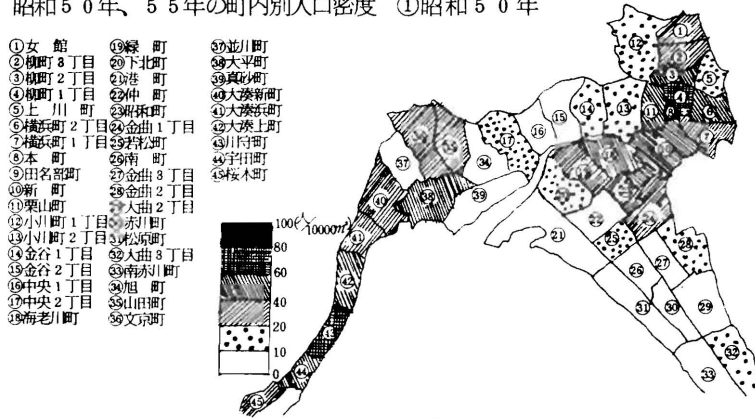
昭和35年には、戦前のピラミッド型の痕跡がみられるが、それ以後は釣鐘型へと変化していく。負担係数は昭和35年に0.60、45年に0.50、55年に0.60と変化するが、これは図4図5に表われている社会増加率の変化と対応する。

以上のように、むつ市の人口推移は社会状況による影響が大きい。

(2) 市街地における地域別人口動態と市街化

人口動態を陸奥湾に面した市街地について、各町内ごとに動きを捉える。(図7、図8)

図7 昭和50年、55年の町内別人口密度 ①昭和50年



②昭和55年

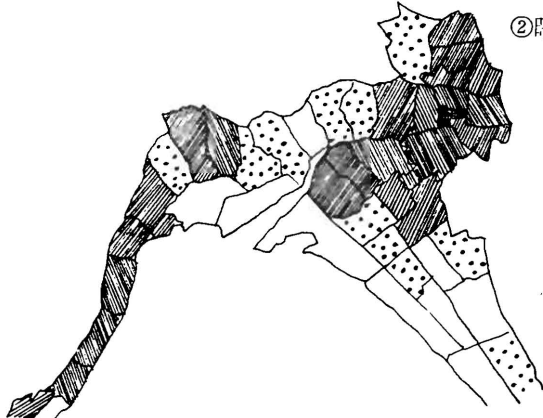


図8 昭和50年～昭和55年の5年間における町内別人口増加率



昭和50年においては、本町、田名部町、柳町1丁目、川守町が、10,000㎡当り60人以上という超過密の現象を示しており、これらの地域を中心に周辺に向かって粗になっている。

昭和55年では、人口の全体的な増加にかかわらず、密度の減少、人口増加率のマイナスを示す地域が見られる。それは、昭和50年において超過密であった本町、田名部町、柳町1丁目、川守町と一致する。これらの減少地域に対して、並川町、下北町、仲町、南町、山田町、旭町、金谷3丁目、小川町、上川町といった、前述の減少地域をとり囲む地域で増加、周辺部にむかってその増加率も大きくなり、密度も大きくなっている。

この核心となる各町内は、本町、田名部町、柳町1丁目の旧田名部地区と、川守町の旧大湊地区に分けられる。このような2地域における核心部の減少と、周辺部の増加は、2つの地域にそれぞれドーナツ現象を呈している。

歴史的に、むつ市は、大湊町と田名部町の合併によった。以前、2つの町は、それぞれ異なった機能を有して存在したが、各々の地域の拡大によって両者が結接し、1つの市街地を形成したと考えられる(コナーベーション)。昭和50年には、両核心地の人口集中と周辺地域の稀薄な状態、合併当時の性格を示す。

しかし5年後の昭和55年のこれらの変化は市街地の均質化と拡大を意味するものである。

結接地域である並川町～金谷の地域は、土地利用の面からも住宅地化の可能性の大きな地域である。最近も、金谷に公営の住宅団地が増設されるなど、人口の急増をみている。住宅地化と人口増加によって、この結接地域はさらに内容的に市街化が進み、市街地全体として均質化される、と予想される。

また田名部地区の北、南に伸びる地域も、増加傾向を示し、それぞれ農地、荒地をひかえ、宅地化の可能性が大きい。市街化の拡大は主にこの地域で進んでいる。

(岩城尚子・馬場道子)

### Ⅲ 農 牧 業

むつ市の農業地域を大別すると、田名部川流域の平野部を中心に稲作が、また、それを取り囲む形のなだらかな丘陵地には牧草地在り、牧畜が行われている。

気候条件をみると、年平均気温は10℃に満たず、特にヤマセの発生する夏季には農作物に与える影響が大きい。昭和55、56年の2年続きの異常気象は農作物に非常に大きな被害をもたらした。

#### (1) 農家数と農家人口

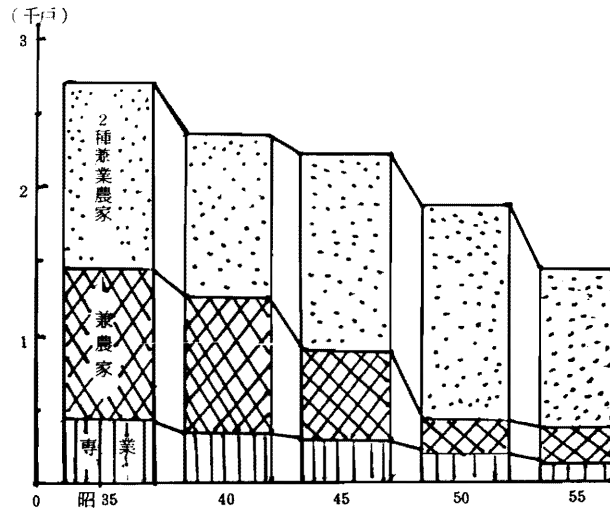
むつ市の就業人口における農業人口の割合は5.6%、1,196人である(55年国勢調査)。

農家数と農家人口を見てみると、昭和55年は53年比で、農家数は7%、農家人口は8.3%の減少を示し、農業人口の老齢化もめだってきている。過去20年間のデータを見ても、

年々下降現象にあることがはっきりと伺われる。

就業状態別でも、専業、兼業農家とも大幅な減少を示している。さらに専兼業別農家数の割合をみると、兼業農家（特に第2種）の占める割合が高い。（図9）

図9 専兼業別農家戸数（農業センサスより作成）



(2) 経営耕地面積

|      | 経営耕地面積   | 田        | 畑        |        |        | 樹園地   |       |
|------|----------|----------|----------|--------|--------|-------|-------|
|      |          |          | 普通畑      | 牧草畑    | その他    | 総面積   | うち果樹園 |
| 昭35年 | 3,215.96 | 1,181.47 |          |        |        | 16.47 |       |
| 40   | 3,141.00 | 1,302.00 |          |        |        | 11.00 |       |
| 45   | 2,998.50 | 1,362.04 | 1,094.66 | 303.09 | 229.02 | 9.69  |       |
| 50   | 2,260.27 | 997.26   | 634.54   | 522.86 | 60.73  | 44.88 |       |
| 53   | 2,292.30 | 786.9    | 499.80   | 674.83 | 15.90  | 21.60 |       |
| 55   | 2,114.91 | 913.3    | 573.22   | 595.22 | 23.40  | 9.81  | 9.76  |

表3 経営耕地面積（単位ha）（農業センサスより）

経営耕地面積は年々減少傾向を示している。昭和53年に田および普通畑の耕地面積が大幅に減少し、逆に牧草畑が増加したのは、減反政策の影響が大きいと思われる。牧草畑の増加は、水田から牧畜へと主体が大きく移行したことを示すものとして注目される。

むつ市においては自家消費的農作物が多く、経営規模も青森県内の他の市に比べてけっして大きいと言えないため、冷害など自然災害は、大きな影響をもたらし、経営方式の転換をもせまれることになる。このことから、むつ市の農業は、けっして楽観的な展望をすることができないと言える。

むつ市では、農業人口の減少にともなう人手不足などの状況を克服するために、耕うん機、バインダーなどの機械がとり入れられ、その普及、大型化が進められている。この機械の導入によって労働生産性は増加したが、けっして楽な経営ではない。

### (3) 牧 畜

むつ市における牧畜業は、農作業の生産条件がよくないために、重要な位置を占めている。市では、市営牧野を名古・宮後・奥内・永下・大川目の5か所に設け、畜産の振興にあたり、放牧実頭数も近年、増加傾向にある。

次に家畜飼育状況についてみる(表4)。

| 年次  | 乳 用 牛 |       | 役 肉 用 牛 |     | 豚   |       | に わ と り |        |
|-----|-------|-------|---------|-----|-----|-------|---------|--------|
|     | 農家数   | 頭 数   | 農家数     | 頭 数 | 農家数 | 頭 数   | 農家数     | 羽 数    |
| 3 5 | 288   | 852   | 104     | 142 | 623 | 960   | 565     | 13,164 |
| 4 0 | 267   | 1,219 | 98      | 145 | 721 | 1,891 | 305     | 14,895 |
| 4 5 | 223   | 1,756 | 163     | 352 | 316 | 1,960 | 104     | 29,880 |
| 5 0 | 125   | 2,081 | 154     | 685 | 104 | 1,890 | 32      | 25,270 |
| 5 3 | 94    | 2,274 | 138     | 743 | 70  | 1,448 | 12      | 15,838 |

表4 家畜飼育頭数の推移 (農業センサスより)

乳用牛は、酪農地帯として早くから実績をあげているが、生産調整の影響を受けて、必ずしも経営が安定しているとはいえない。経営基盤の整備に力を入れながら、定着化を図っている。行政面からの牛乳消費拡大策も望まれる。

肉用牛および豚は、経営規模の拡大によって安定化を目指しており、特に肉用牛は、一戸あたり、45年の3倍以上に伸びている。今後、最も期待できるものであろう。

にわとり(採卵鶏)は、事業体によるものは規模が大きいが、他は自家消費用が主体である。

### (4) 農業経済の概要

むつ市の農業粗生産額をみると、49年から54年までは、ほぼ横ばいで推移している。54年の粗生産額は33.4億円で、その構成比は、米25.4%、野菜8.7%、畜産物60.4%、その他5.5%で、6割が畜産物で占められている。県の16.4%に比べると、いかに畜産物の割合が大きいかわかる。一方、冷害年である55年の構成比は、米0.2%、野菜7.1%、畜産物87.2%、その他5.5%となっており、冷害の影響を受けた米、受けない畜産物の差が明瞭である。(図10)



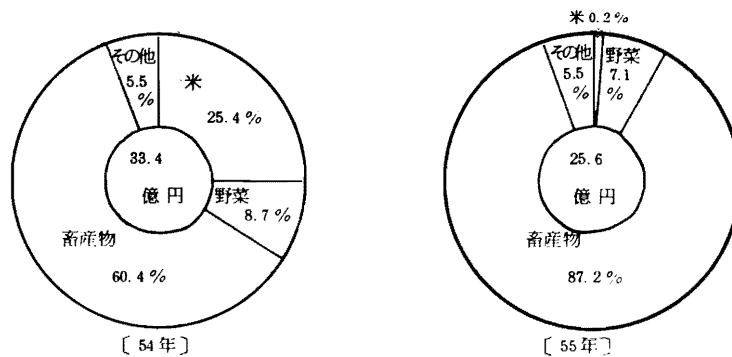


図10 農業粗生産額の構成比 (農業生産所得統計より作成)

以上のことから、減反政策や冷害の影響を受けて、米の比重はさらに減少するものとみられる。反面、畜産物の生産は増加していくであろう。特に、肉用牛にかかる期待は大きいものがあり、地域の振興上、重要な課題である。

(松橋隆夫・川村善史)

#### IV 水産業

##### (1) 生産の状況

###### a 生産構造

むつ市の水産業人口は就業人口の1.5%、実数では320人とときわめて少ない(55年国勢調査)。また、全169戸の漁家のうち専業が25戸に対し、兼業は144戸と圧倒的に多い。兼業は農業、または水産業以外の雇われとの兼業が主である。(53年第6次センサス。)

###### b 漁獲数量・金額

過去10年間の魚種別の漁獲数量・金額は表5のとおりで、表6は表5から算出した1kgあたりの金額を示す。全魚種のうち、ほたて貝の漁獲が圧倒的に多いが、養殖ほたて貝は地播ものよりかなり少なく、必ずしも水産業の主流とはなっていない。

各魚種の漁獲数量・金額はともに年ごとの変動が激しいが、ある魚種の漁獲が大幅に減った分だけ他の魚種の漁獲が大幅に増えるといった場合が多くみられ、その結果、漁獲数量・金額の合計は毎年安定した値を示し、しかも最近では年々増加していく傾向さえある。それでも、むつ市の産業全体の生産額に占める水産業の生産は0.5%にすぎず(54年)、水産業の生産の増加が、ただちにむつ市の経済全体に大きな影響を及ぼすとは考え難い。

表5 魚種別魚獲数量及び金額

(むつ市統計書より)

| 魚種\年     |                 | 46                   | 47                   | 48                   | 49                   | 50                   | 51                   | 52                   | 53                     | 54                     | 55                 |
|----------|-----------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|------------------------|------------------------|--------------------|
| 魚類       | さば              | * 40,220<br>* 4,026  | 13,600<br>650        | 47,347<br>1,985      | 50,901<br>1,703      | 204,867<br>6,388     | 258,887<br>12,672    | 124,167<br>5,919     | 307,437<br>10,809      | 67,548<br>14,872       | 106,908<br>12,752  |
|          | さけ              | 742<br>577           | 8,485<br>1,390       | 39,117<br>35,454     | 39,124<br>33,479     | 22,782<br>19,856     | 40,827<br>38,069     | 78,706<br>70,095     | 122,989<br>85,120      | 210,225<br>149,283     | 214,688<br>165,997 |
|          | まいわし            | —<br>—               | 500<br>65            | —<br>—               | 5,827<br>444         | 74,232<br>3,735      | 33,302<br>3,749      | 39,394<br>2,897      | 210,908<br>5,963       | 84,179<br>3,094        | 233,848<br>6,886   |
|          | かれい             | 39,414<br>10,681     | 51,191<br>13,327     | 35,017<br>10,843     | 29,568<br>12,808     | 25,867<br>13,086     | 36,822<br>16,672     | 29,480<br>12,351     | 46,273<br>24,699       | 51,680<br>27,523       | 72,445<br>41,554   |
|          | ほっけ             | 2,645<br>511         | 700<br>210           | 1,582<br>187         | 34,775<br>766        | 20,802<br>972        | 57,272<br>4,207      | 41,818<br>2,059      | 5,002<br>407           | 14,894<br>1,537        | 11,162<br>2,338    |
|          | ひらめ             | 6,828<br>3,348       | 6,958<br>5,631       | 10,822<br>6,780      | 4,548<br>4,313       | 10,432<br>10,882     | 3,850<br>5,573       | 2,081<br>2,362       | 4,553<br>5,942         | 28,182<br>30,609       | 43,756<br>98,484   |
|          | 貝類              | **                   |                      |                      |                      |                      |                      | 914,227              | 2,158,962              | 1,732,817              | 2,237,321          |
| ほたて貝     |                 | 1,487,926            | 2,356,998            | 725,115              | 2,793,312            | 1,194,128            | 229,097              | 421,194              | 375,125                | 611,381                | 759,817            |
| **       |                 | 199,492              | 318,993              | 113,470              | 491,214              | 326,027              | 714,263              | 130,410              | 78,496                 | 105,827                | 233,198            |
| 養殖ほたて貝   |                 |                      |                      |                      |                      | 194,819              | 22,793               | 17,313               | 24,606                 | 55,223                 |                    |
| その他の水産動物 | なまこ             | 48,553<br>13,305     | 29,318<br>8,672      | 31,605<br>12,803     | 26,533<br>10,255     | 123,628<br>51,803    | 86,217<br>31,145     | 131,806<br>41,771    | 178,431<br>56,835      | 135,827<br>69,908      | 134,752<br>75,448  |
|          | するめいか           | 130,820<br>20,439    | 65,370<br>27,660     | 13,294<br>3,364      | 31,594<br>12,979     | 4,471<br>857         | 3,846<br>972         | 4,100<br>1,006       | 1,881<br>516           | 35,085<br>11,355       | 11,596<br>5,097    |
|          | たこ              | 27,761<br>5,382      | 30,843<br>6,181      | 23,604<br>5,872      | 16,144<br>4,984      | 12,827<br>5,591      | 4,248<br>1,529       | 18,565<br>4,563      | 15,688<br>7,387        | 18,740<br>7,915        | 37,640<br>13,270   |
|          | 藻類              | 78,360<br>64,022     | 45,000<br>7,425      | 93,209<br>80,220     | 2,590<br>1,654       | —<br>—               | 375,312<br>28,445    | —<br>—               | 56,821<br>52,198       | 600<br>81              | 31,641<br>4,559    |
| わかめ      | 47,690<br>8,054 | 144,450<br>9,604     | 205,047<br>10,838    | 225,991<br>12,579    | 34,530<br>1,553      | 36,470<br>2,066      | —<br>—               | —<br>—               | 15,250<br>2,378        | 31,641<br>4,559        |                    |
| 合計       | ***<br>357,685  | 2,028,733<br>434,882 | 2,913,473<br>323,791 | 1,334,835<br>642,848 | 3,369,459<br>514,871 | 1,858,459<br>633,287 | 2,740,421<br>682,366 | 3,019,942<br>748,031 | 3,031,478<br>1,100,336 | 3,304,713<br>1,493,874 | 4,574,235          |

\* 上段の数値は魚獲数量(単位kg)、下段は漁獲金額(単位千円)

\*\* 50年までは地播・養殖の合計

\*\*\* 上記以外のすべての魚種の漁獲数量・金額をも含めた合計

表6 魚種別1kgあたり金額(単位 円)

(むつ市統計書より作成)

| 魚種 \ 年 |       | 46    | 47    | 48    | 49    | 50    | 51    | 52    | 53    | 54    | 55    |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 魚類     | さば    | 100   | 48    | 42    | 38    | 31    | 49    | 48    | 35    | 220   | 119   |
|        | さけ    | 778   | 164   | 906   | 856   | 872   | 932   | 891   | 692   | 710   | 773   |
|        | まいわし  | —     | 76    | —     | 50    | 50    | 113   | 74    | 28    | 37    | 30    |
|        | かれい   | 271   | 260   | 367   | 433   | 506   | 453   | 419   | 534   | 533   | 574   |
|        | ほっけ   | 193   | 300   | 118   | 22    | 47    | 73    | 49    | 81    | 103   | 209   |
|        | ひらめ   | 490   | 809   | 627   | 948   | 1,043 | 1,448 | 1,135 | 1,305 | 1,086 | 2,251 |
| 貝類     | ほたてがい |       |       |       |       |       | 251   | 195   | 216   | 273   | 262   |
|        | 養殖ほたて | } 134 | } 135 | } 156 | } 176 | } 273 | 273   | 175   | 221   | 234   | 237   |
| 水産動物   | なまこ   | 274   | 296   | 405   | 386   | 419   | 361   | 317   | 319   | 515   | 560   |
|        | すめいか  | 156   | 423   | 253   | 411   | 192   | 253   | 245   | 274   | 324   | 440   |
|        | たこ    | 194   | 200   | 249   | 309   | 436   | 360   | 246   | 471   | 422   | 353   |
| 藻類     | こんぶ   | 817   | 165   | 861   | 639   | —     | 1,319 | —     | 919   | 741   | 3,470 |
|        | わかめ   | 169   | 66    | 53    | 56    | 45    | 57    | —     | —     | 156   | 144   |

## c むつ市の産業における水産業の地位

以上のように、むつ市の水産業は、当初予想していた印象とは裏腹に、きわめて零細な産業であって、むつ市の産業の根幹をなす程の重要性をもっているとはいえない。

しかし、ほたて貝の生産については、年々漁獲量は着実に伸びており、特に養殖の面では健苗育成等によるへい死の減少から増産が見込まれている。今後は、陸奥湾内におけるほたて漁を主力に、安定した水産業が目ざされていくことと思われる。

## (2) むつ市漁協にて

むつ市漁協は組合員144名、うち120名はほたてに従事するという漁協である。

ほたてには「養殖ほたて」と「天然ほたて」があるが、漁獲高は天然ものが圧倒的に多くまた単価も天然ものが養殖ものよりキロ当たり15円程高く取り引きされているため、漁獲金額は天然ものが7億5,000万円、養殖もの5,500万円となっている(56年むつ市統計書)。

水揚げされたほたては月2回、青森へ出荷され、県漁連を通して売買される。

養殖ほたては、約3年かかること、また天然ものに比してパルネットの中で育てられるため安定性に欠けるという点が大きな課題であるということである。

ほたて漁従事者についてみると平均年齢45歳、第1種兼業がほとんどで、平均年収は約600万円とむつ市の他の職業に比べて非常に高くなっている。そのため、後継者問題もほとんどないという。

### (3) 今後の展望

むつ市の水産業は、これまでの考察で明らかなようにきわめて零細であり、かつ収益的には漁船用燃油の高騰などから、きわめて厳しい状況にある。今後は、陸奥湾内におけるほたて貝を主力とした内水面漁業を中心に生産の安定成長が目指されるものと思われる。

しかし、最近の大きな問題として原子力船「むつ」の新母港問題があり、大湊再入港については実現を見ている。周辺各漁協はこれに強い反対の態度をとっている。

万一、放射能もれ等の事故が発生した場合、今後の生産の増加が見込まれるほたて貝中心の水産業も壊滅しかねず、期待と不安との紙一重の中で、むつ市の水産業の将来は複雑な様相をはらんでいるといえる。

(高桑 優・玉川雪彦)

## V 工業

### —主として東北アツギむつ工場について—

むつ市の第2次産業の就業人口は、全産業の22.1%を占め、その中でも製造業は全産業の9.3%、また市民所得も9.8%の構成比を示す。事業所数、従業者数、出荷額から食料品工業、木材工業はむつ市の工業の中で大きなウエイトを占めている。これらは地元の資源に立脚した工業であるが、例外としてむつ市田名部の南西部・下北町に東北アツギ株式会社むつ事業所(のちにむつ工場)がある。

この工場は、設立が昭和41年5月、操業は翌年3月。資本金15億円。本社を神奈川県海老名市に持つ。現在の従業者数750名のうち女子が550名で女子労働集約型と言える。この工場は、経済企画庁、東北開発局、青森県、むつ市、厚木ナイロン工業の5者により、誘致が決定された。

むつ工場では、パンティ・ストッキングを生産している。その1ヶ月の生産量は120万デカ(1200万足)に及ぶ。これは、昭和46年以後の機械化・省力化・合理化による。パンティ・ストッキングの製造は次の5工程から成る。合燃→編立→縫製→染色仕立→検査装飾である。むつ工場は合燃と染色仕立を担当し、残りの3工程は県内の17及び県外(岩手県北部)の3つの衛星工場で分担している。製造された商品は厚木ナイロン商事で直売方式で販売する。

アツギがむつ市に進出した立地条件は、まず豊富な労働力、賃金の格差(安さ)である。この工場の大きな特徴は、女子社員の平均年齢が19歳と極端に低いことで、これは中卒者の採用にある。女子中卒者採用の地域別比率(昭和56年)は、下北地区が90%、南部3%、津軽6%、北海道1%となっている。この工場は、女子中卒者に有利な条件を与えている。まず、県立高校卒業の資格修得制度、そして全寮制、奨学金制度及び週休2日制である。

最後に、この工場は、むつ市へ直接的影響はないが、社員の給与（ひと月総計1億円）が、第3次産業、主としてサービス業に寄与する。

（石岡篤実）

## Ⅶ 交通

### (1) 道路事情

下北地域は、観光・未利用地・農林水産等の資源に恵まれ、また、むつ小川原大規模工業開発をはじめとして各種工業にも大きな期待が寄せられており、これらを中心とした当地域の発展においては、前提条件の1つとして道路を中心とした交通の整備促進の必要性が高いといえることができる。

ここでは、むつ土木事務所の管轄するむつ市、下北郡3町4村の道路現況についてみてみたい。同管内の道路網と内訳は、図11、表7の通りである。

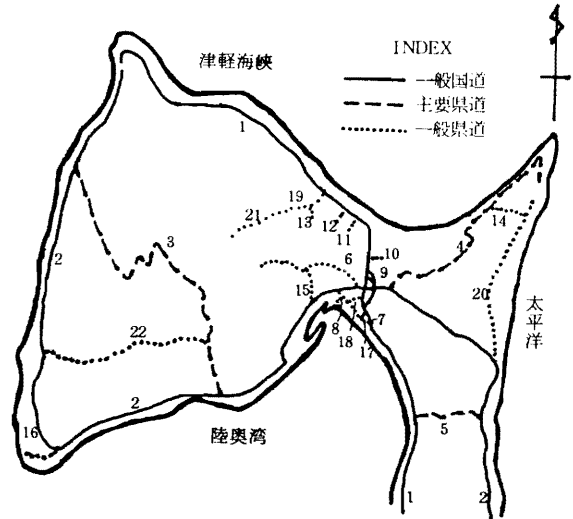


図11 道路網 57年度むつ土木事務所管内要覧より

昭和57年3月31日現在

| 道路<br>種別    | 第11図<br>対照<br>番号 | 路 線 名    | 実延長    | 改 良 済  |        | 舗 装 済  |        | 橋 梁<br>橋 数 |
|-------------|------------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|
|             |                  |          |        | 延 長    | 率      | 延 長    | 率      |            |
| 一般          | 1                | 279号     | 73.0Km | 73.0Km | 100.0% | 73.0Km | 100.0% | 65         |
| 国道          | 2                | 338号     | 144.23 | 69.02  | 100.0  | 34.21  | 100.0  | 19         |
| 主要<br>県道    | 3                | 川内・佐井    | 43.91  | 24.93  | 56.8   | 18.98  | 43.2   | 19         |
|             | 4                | むつ・尻屋崎   | 26.71  | 22.72  | 85.1   | 24.24  | 91.0   | 11         |
|             | 5                | むつ・東通    | 9.31   | 3.7    | 39.7   | 0      | 0      | 8          |
| 一<br>般<br>道 | 6                | むつ恐山公園   | 14.06  | 14.06  | 100.0  | 14.06  | 100.0  | 3          |
|             | 7                | 赤川(停)    | 0.78   | 0.78   | 100.0  | 0.78   | 100.0  | 1          |
|             | 8                | 下北(停)    | 0.63   | 0.63   | 100.0  | 0.63   | 100.0  | 1          |
|             | 9                | 田名部(停)   | 0.35   | 0.35   | 100.0  | 0.35   | 100.0  | 1          |
|             | 10               | 陸奥関根(停)  | 0.35   | 0.35   | 100.0  | 0.35   | 100.0  | —          |
|             | 11               | 川代(停)    | 0.11   | 0.11   | 100.0  | 0.1    | 90.91  | —          |
|             | 12               | 正津川(停)   | 0.12   | 0      | 0      | 0.12   | 100.0  | —          |
|             | 13               | 大畑(停)    | 0.65   | 0.65   | 100.0  | 0.65   | 100.0  | —          |
|             | 14               | 尻労斐部     | 7.12   | 3.18   | 44.7   | 4.67   | 65.6   | 1          |
|             | 15               | 長坂・大湊    | 5.9    | 3.13   | 53.0   | 2.86   | 48.5   | 3          |
|             | 16               | 九搜泊・脇野沢  | 6.88   | 2.78   | 40.4   | 4.12   | 60.0   | 3          |
|             | 17               | 赤川・下北(停) | 5.11   | 5.11   | 100.0  | 5.11   | 100.0  | 1          |
|             | 18               | 海老川・新町   | 2.8    | 2.8    | 100.0  | 2.8    | 100.0  | 1          |
|             | 19               | 大畑港      | 0.31   | 0.31   | 100.0  | 0.31   | 100.0  | —          |
| 道           | 20               | 尻労・小田野沢  | 16.58  | 4.91   | 29.6   | 3.05   | 18.4   | 1          |
|             | 21               | 恐山公園大畑   | 12.09  | 11.02  | 91.1   | 11.9   | 98.4   | 11         |
|             | 22               | 長後・川内    | 14.47  | 0.35   | 2.8    | 0.1    | 0      | 12         |

表7 道路網の整備状況

昭和57年度むつ土木事務所管内要覧より

(停)：バスの駐車場があることを示す。

一般国道は、279号と338号がむつ市で交叉し、海岸線に沿って半島を一周し、改良率、舗装率とも100%で整備が充分されている。また、主要県道はむつ・尻屋崎線に比べ、他の2路線の整備が遅れている。一般県道については、全体で改良率58%、舗装率59%で、まだ整備充分とはいえ、特に長距離の路線の整備が遅れている。

全体で見ると、むつ市付近に比べ、郡部の路線の整備が遅れており、今後これらの路線の整備促進が望まれる。

## (2) 交通量

むつ市内の交通量については、その増加量はここ数年大きくは伸びておらず、各地点での交通量もほぼ一定してきているようで、各調査地点合計で、11万9千台前後である。交通量が多いのは、田名部駅前、本町、小川町、大湊新町で、1万～1万3千台となっているが、田名部駅前は中心商店街で徒歩が7千以上となっているのに比べ、他の3地点は、国道が通り、乗用車、トラックの交通量が多い。他の残りの地点では、乗用車の占める割合が高く40～50%を占め、次いで徒歩、自転車が多くなっている。

## (3) 交通事故

むつ市における昭和56年度の交通事故は発生件数202件（前年比+4）、死者5名（同+4）、負傷者228名（同-4）となっている。発生状況を見ても、月別では全体的に平均化しているが、道路別では2つの国道（129件）と市道（41件）が多く、一般県道も増加している。また、特に目を引くのは原因別において安全運転義務違反が159件、第一当事者では20～30歳代が132件となっており、若者の不注意な無暴な運転が多く、事故を引き起こしているといえ、その点での対策、運転者の自覚が望まれる。歩行者の事故は減少したものの、その中で老人の事故が9件から14件に増加しており、子供と同様老人に対してもより一層の安全教育が必要であろう。

## (4) 鉄道交通

鉄道の利用状況を見ると、昭和56年の大湊駅の総乗車人員をみると、昭和56年の大湊駅の総乗車人員は201,398人で、そのうちの定期人員は93,102人であり、約40%の割合である。また田名部駅の総乗車人員は118,296人、定期人員は28,260人で約24%の割合である。総乗車人員の相違要因としては、大湊駅が終点駅であるのに対して田名部駅が通過駅であるためだろう。月別の利用状況では1月、3月、8月にピークがあり、観光シーズンや出稼者帰省が原因と考えられる。また、利用状況の年度推移をみると、昭和50年あたりまでは増加がみられたが、その後、バス利用者や自家用車所有の増加によって、鉄道利用者は減少している。

(5) バス交通(図12)

下北半島のバス交通は、東部と北部を受け持つ下北バスの路線と、南部を受け持つ国鉄バスの路線から成り立っている。

下北バスは、昭和11年設立当初は、大畑を中心として、佐井線、大畑—むつ線、恐山線、むつ市内線であったのが、その後半島南部へと路線を延長していき、現在では田名部を中心として下北半島と青森市とを結ぶようになった。

下北バスの路線の中で56年度の利用状況の高い路線は、大畑—むつ線、野辺地線、佐井線であり、全路線に占めるこの3路線の利用割合は約57%を占め、下北バスの幹線となっている。

逆に最も利用率の低い路線は葉研線で全路線の僅か0.4%である。この路線は観光路線と考えられるが、マイカー利用者の増加によって、利用者が減少している。次に、定期利用者の高い路線は尻屋線で、約32%の割合である。その他大畑—むつ線が18%、野辺地線が13%、横浜線14%となっている。

月別乗車人員によって路線を、観光型・日常型・混合型に分類してみると、ほとんどが混合型の路線である。しかし、恐山線は8月にピークのある観光型路線、吹越・小田野沢・六ヶ所・横浜はピークのはっきりしない日常型路線という性格が強い。

国鉄バスは、田名部—脇野沢の下北本線と川内町—湯の川温泉の安部城線とから成り立っている。下北半島南部沿岸を結んでいる日常生活型路線という性格が強いが、仏ヶ浦や湯の川温泉といった観光地もあることから、観光的要素も多少は含まれている。

(山田谷幸一・石田隆浩)

## Ⅶ 商業

### (1) 田名部地区の商店街

田名部地区の商店街は、大きく分けて次の6つの地区に分類される。①田名部駅前商店街 ②本町通り商店街 ③横浜町商店街 ④田名部町商店街 ⑤小川町商店街(新通りと旧通りの二つ

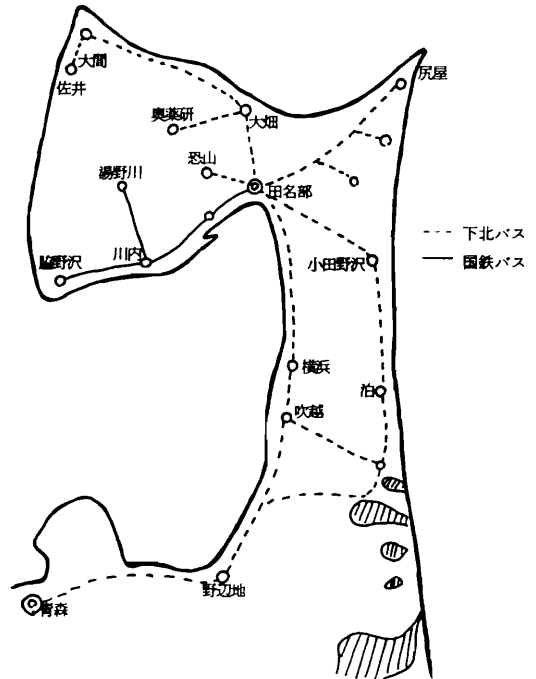


図12 バス路線



に区分される)⑥新町商店街(みなみ屋カメラ店通り、小原精肉店通り、田名部高校通り)の6地区である。この中でも交通量の多い上位2地区(田名部駅前商店街と本町通り商店街)を、中心商店街として重点的にしぼって調査した。田名部駅前商店街では、むつ松木屋デパートが1967年(昭和42年)に、むつショッピングセンターが1971年(昭和46年)にそれぞれ営業を開始した。これに小川町商店街通りにあるマエダ百貨店を加えた既存三大型店は、最近増築を終え、田名部地区も本格的な大型店時代に突入した。

ここで、田名部地区の中心商店街の業種構成を見ることにする。織物・衣服・身の回り品を扱っている店は駅前通りに12.8%、本町通りに27.9%の構成率を示しているが、この業種は中心商店街の構成において主要な部分をなすものである。この中でも買い回り品である衣料品(特に婦人衣料)、靴履物品を扱う店が多いということが特色として挙げられよう。駅前通りに織物・衣服・身の回り品店が少ないのは、この地区が2つの大きな百貨店をかかえており、そこでも扱っていることに起因している。飲食店は駅前通り17.9%、本町通り6.6%と、圧倒的に駅前通りの方が多い。これは、この地区にある田名部駅とバスターミナルを利用する人が多いために、このような偏在を見せているのではないかと思われる。他に気づいたこととしては、喫茶店のほとんどが店舗の二階にテナントの形式で営業していたことである。自動車・自転車小売販売店は、この両地区には見当たらなかったが、これは、このような業種が中心商店街には適応できないためである。家具・建具・什器店は、本町通りにわずか一軒あるだけである。これは、このような高級買い回り品の購買については、青森市との関係が強いためである。その他の小売業では、書籍文房具店が駅前通り、本町通りにそれぞれ二軒ずつ、医療品化粧品店が駅前通りに一軒、本町通りに二軒、カメラ店が駅前通りに一軒、本町通りに二軒あるのが主なところである。田名部地区の中心商店街における業種構成の特徴としては、織物・衣服・身の回り品店の比率が高いことが挙げられる。この理由として挙げられるのが、むつ市の商圈構造であろう。

むつ市は東通村全域と陸奥湾岸沿いに強い商圈を有している。(東通村役場がむつ市に設置されていることは、端的にそれを意味している)また、大畑町の西隣の風間浦村が飛び地的商圈として、大畑町より高次商圈を形成している。このことから考えても、むつ市の商圈は日常生活に必要な最寄り品は地元から購入し、高級買い回り品については青森の商圈に含まれているといえよう。

## (2) 大湊地区の商店街

大湊地区の商店街は大湊駅を軸として地方主要道(むつ~川内線)に沿って分布している。その業種別比率は身の回り品が39.6%、飲食料品が16.7%、飲食店が20.8%、その他の小売業が20.8%となっている。

特色として、田名部地区と比較して、小規模店が多い。身の回り品の店が大きな比率を占めていることから、身近かな買物は大湊で済まそうという消費者が多いと推測される。また、歓楽街は駅の西側に集中している。

(油布一之・石岡篤実)